

【学生による ESD 学習支援】

奈良市富雄第三小中学校 第 10 回ユネスコ委員会 支援報告書

国語教育専修 2 回生 西條秀哉

1. 実施日 令和 2 年 1 月 8 日 (水)
2. 場所 奈良市富雄第三小中学校
3. 参加者 西條秀哉 (学部生)
奈良市富雄第三小中学校児童・生徒 約 30 名、教員 2 名
4. 活動支援内容

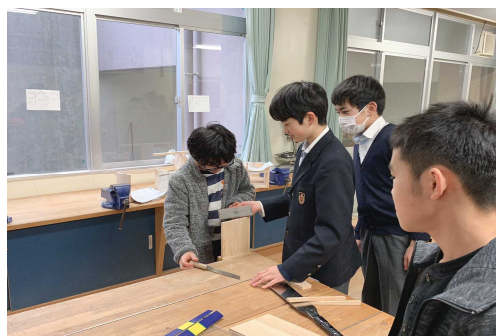
令和 2 年 1 月 8 日、富雄第三小中学校にて第 10 回ユネスコ委員会が行われた。今回はビオトープ班の活動に参加させて頂き、小中学生と一緒にビオトープに設置するバードハウスの作成を行った。

今回の活動で学んだことは 2 点ある。1 点目は校内のビオトープを利用した活動について、2 点目は小学生と中学生の共同作業についてである。

1 点目の校内のビオトープを利用した活動については、本活動全体を通して感じた。学校の中に池や木々、植物が広がる自然の空間があり、それをその学校の児童生徒がより良い空間にするために活動しているということはとても意義のあることだと思う。近年子どもの自然離れが問題視されている中で、このような実践例は他の学校でも見習うべき内容だろう。しかし実際にビオトープを見学する中で、まだまだ花が少なかったり、何もないのっぺりとした場所が多く残っていたりと改善していけるような要素は沢山あった。「自然あふれる空間」というだけではなく、「学内の児童生徒が休み時間に来くなるような居心地のいい場所」にこれからどんどん変わっていくことを大変期待している。

2 点目の小学生と中学生の共同作業については、ユネスコ委員会のビオトープ班の活動に参加させて頂いた際に感じた。今回気づいた点として、小学生と中学生が同じ空間で一緒にコミュニケーションをとったり活動したりといった様子が見受けられた。最初は学年ごとに分かれて製作物を作っていたが、中盤、終盤につれて中学生が小学生にアドバイスしたり、作業を手伝ったりする様子が見られた。小学生の縦のつながり、中学生の先輩後輩の関係はどの学校でも見られるものであるが、小学生と中学生の交流という光景はなかなか見られないものであったので非常に新鮮であった。中学生は自分より心身ともに幼い子どもと関わることで、物事を教えたり面倒を見たりするいい機会になり、小学生は自分より少し上のお兄さんお姉さんの姿を間近で見ることで自分の今後の姿や理想の自分というものが想像しやすくなるのではないかと思う。

私は今回の支援で「持続可能な開発」を如何にして子どもたちに伝えるかについても考えさせられた。担当の先生が来るまでの少しの時間で私が児童生徒に「ESD とは何か」を教える機会を与えられた。理屈上では ESD について



理解していても、子どもたちに分かるように説明するとい 小学生にやすりの使い方を教える中学生
うことは非常に難儀なものであった。何とか小学生でもわかるような単語を紡ぎだして説明したが、実際に子どもたちに伝わったか、理解させることができたかとなると、やはりまだまだ説明下手であり知識不足だったということが身をもって思い知らされた。ESD は「SD (持続可能な開発) の教育」なので、最終的に子どもたちが理解できるような説明、工夫が必要不可欠である。これからも持続可能な開発に関わるあらゆる方面の知識や理解を深めるとともに、分かりやすく伝える方法や工夫を考えて実践し、試行錯誤していきたい。